



発行責任者
西 川 晃 二

【校長室より】

夏が来る 「よい子」からの脱却を

1学期もあっという間に終わりを迎えました。7月20日には終業式を実施し、学期の終わりとしてのけじめをつけたところです。

始業式の際に、「挨拶をする」「朝食を摂る」「ものを見る眼・観察の眼」という話をしました。そこで、終業式に際し生徒たちがどれほど覚えているだろうかと質問をしたところ、三つすべて覚えている生徒はいないようでした。1学期始業式、新しい校長からの第一声であったにもかかわらず、覚えている生徒が少ない様子には少々がっかりしたところです。まあ、校長の話は簡潔を旨とし、印象深い一言を発することが大事であります、あまりにも当たり前すぎる上記内容を、生徒の心に響かせることができなかった私自身の不徳に反省することしきりです。ただ、人というものは、当たり前すぎる、そのことができないものです。それだけは強調したいと思っています。そこで終業式訓話の最後に「凡事徹底」（当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やるという意味。）を語ったところでした。

さて、1学期を振り返って、他に思うことがあります。五高生がすばらしいこと、よい子が多いということです。高総体等の対外試合壮行式での決意表明は、周囲への感謝の気持ちをもって、試合でのがんばりを表明してくれる生徒諸君でした。ところが、その表明を聞いて、あまりにも優等生的な雰囲気になんか不満を持ちました。「勝ち」を取りに行くというどん欲なまでの思いを感じ取ることができなかったのです。そこで、生徒諸君には「がんばれ」とは言わない、「負けるな」ということばを贈ったのです。がんばるのは当たり前、その次の段階での勝負に挑めという気持ちから発したものです。

先日、ロンドンオリンピック・イギリス柔道チームの日本人コーチの方がTVで語っていました。「イギリスの選手を指導していて、改めて教わるところがある。それは勝ち負けにこだわり、積極的に『勝ち』を取りに行く姿勢があることだ。これまでの自分は、がんばってきた自分自身に満足して、勝負への挑戦心が薄かった」と。この「がんばりへの自己満足」が日本人の特性だとするならば、五高生に対して私が抱いた印象は当然のことかもしれないのです。しかし、今後、生徒たちは島を離れ、日本全国へ、世界へ羽ばたく人もいるでしょう。そのとき生徒たちが「負けない」人生を送ってもらいたいと期待するからこそ、よい子が多い五高生に少々不満を持ったわけです。

ただ、問題を起こす生徒よりも、問題のない生徒が良いに決まっています。保護者も、地域も、教員もこぞってよい子作りに励んでいます。それゆえ、五高生の素直さは褒められこそすれ、けなされるいわれはないはずです。よって、五高生に対する私の印象は的外れかもしれません。しかし、くどいようですが「あまりにより子過ぎておもしろくない。問題がないというよりも、問題がないということが問題ではないか。また、問題がない子ほど見えない形で問題を抱え、深く進行しているのではないか。などなど。」うがった見方、意地悪な見方を捨てきれません。佐々木正美川崎医療福祉大学教授による「よい子」について「絶えず相手から良い評価を与えられることでしか、対人関係に安心することができずにいる子ども」との解釈に「なるほど」と納得させられるのは私だけではないかと思うのです。

とはいえ、先日の校内競技大会での表彰伝達では表彰を受けた生徒たちがそれぞれのパフォーマンスでクラスの皆にメッセージを送っている姿に少し安堵もしたところです。

さて、夏休みに突入します。自己責任のもと規則正しい生活を送ってもらいたいものです。この夏が生徒諸君の大きな飛躍の機会になることを祈念します。



寮大掃除、防災避難訓練 (6月29日)

6月29日(金)、寮において大掃除と防災避難訓練を行いました。

大掃除は、寮生と多くの先生方に協力していただき、約1時間かけて日ごろ手が回らない箇所を重点的に行いました。皆さんの協力のおかげで環境も整備されました。今の状況をこれからも維持してほしいものです。

避難訓練については、調理場から出火したという想定で、通報、避難、集合点呼を真剣な面持ちで行いました。消防署員の方からは、予防が重要だとの説明がありました。各人、自分の部屋だけでなく、寮全体の予防にも心がけ、安心して寮生活を送るようにしてほしいと思います。



あこうセミナー (7月2日)

7月2日(月)の6・7校時に第1学年では「あこうセミナー」を実施しました。これは毎年、総合的な学習の一環として行っており、医療系の保健師・理学療法士や行政関係、農業関係、海上保安庁などの12分野から、地元で活躍されておられる方々をお招きして、その職業について話をしていただくというものです。7月に文理選択を控えた生徒たちは、希望分野の話を真剣な表情で聞いていました。近年においては、公務員(消防士・警察官)を志望している生徒も増えていきますので、今年度は新たに五島警察署の方にも来ていただきました。

生徒の感想文には「私もいつか五島に貢献できるようにしたいです。」「しっかり文理選択を考えて、自分の夢に向けて体力・学力をつけたいです。」と書かれており、職業への興味・関心や進路意識を高めるよい機会になったと感じることができました。



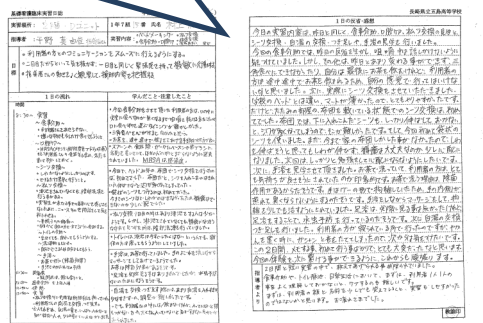
施設実習(衛生看護科1年生) (7月3・4日)

7月3日(火)・4日(水)に1年生衛生看護科の生徒は、施設実習を経験しました。初めての実習ということもあり緊張気味で初日を迎えたましたが、2日後には幾分、緊張も和らぎ入所者の方と楽しくコミュニケーションをとる場面も見受けられました。

生徒の感想(2日間の学び)

- 入所者さんの普段の様子がわからないため、異常・正常の判断がつかないときは、施設の方から入所者さんの日常の情報を得ることが大切だと感じた。何かを援助するときには、情報を得てから行動にうつすことの必要性を学んだ。
- 介護や看護では、コミュニケーション能力や人の話を聞く態度、また次にどのような行動をとればよいか常に考えることが大事だと思った。しかし、それは日頃の生活の中でも身につけることが出来るので、学校での自分の生活態度を見直していきたいと思った。12月の7日間の実習では、今回の反省を生かして頑張りたいと思います。

初めて書く実習日誌に悪戦苦闘!!
B4用紙いっぱい学んだことを記入しました。



第1回校内競技大会結果(7月13日)

男子			女子		
種目	優勝	2位	種目	優勝	2位
バレーボール	3年4組	1年3組	バレーボール	2年7組	2年5組
ソフトボール	3年2組	2年4組	サッカー	1年5組	2・3年6組
卓球	2年1組	2年5組	ソフトテニス	2年5組	1年2組



マリンスポーツ実習（スポーツコース） （7月10～12日）



7月10日（火）から12日（木）の日程でマリンスポーツ実習を実施しました。玉之浦小浦海水浴場でのカヌー実習（玉之浦町商工会の御協力）やさんさん富江キャンプ村での水泳実習、マリンスポーツ（ビーチサッカー・ビーチフラッグ）、飯ごう炊さん、普通救命講習（富江町公民館・五島市消防署の御協力）などを実施しました。どの実習も地域の方々のご協力と五島の自然のおかげで充実した実習を行うことができました。

今年は、1・2年生のスポーツコースの生徒30名が参加しました。生徒たちはそれぞれが個々の役割を果たし、協力して活動している様子を目にする機会が多い素晴らしい実習でした。2年生は、昨年の経験を生かし一回り成長した姿を見せてくれました。1年生は初めての事ばかりで上手くいかないこともありましたが、全てのことに對して一生懸命に取り組む姿が印象的でした。2日目の夜には豪雨の為、テントが浸水するなどのハプニングもありましたが、全員が協力することで乗り切ることができました。生徒は、快適とは言えないテント生活という普段できない体験を通して、自然の雄大さ、仲間と協力して生活することの大切さ、さまざまな活動をやり遂げた時の達成感を味わうことのできた素晴らしい実習であったと確信しています。



吹奏楽コンクール壮行式 （7月20日）

7月20日（金）、吹奏楽部の壮行式を実施しました。3年生にとっては最後のコンクール、1・2年生にとっても3年生と一緒に演奏できる最後の機会とあって、それぞれの思いを胸に生徒たちはこの壮行式を迎えました。4月には1年生が21名入部、5月には新メンバーになって初めての学外演奏（鬼岳の子ども自然大会）、そして海陽高校・五島南高校と合同バンドを組んで出演した連合音楽会、6月には国際トライアスロン大会のセレモニー演奏と、着実に1つ1つのステップをクリアしてきました。「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」課題や試験に追われ、部活と勉強の両立で悩みながらも毎日コツコツと練習を積み重ねてきた努力がすべて報われるように、コンクール本番ではベストを尽くしてきたいと思います。応援よろしくお願いします。



体育祭テーマ発表 体育祭実行委員長 才津佑介

今年度の体育祭のテーマは、「虹～555（ゴーゴーゴー）の色（ちから）あわせて～」に決定しました。このテーマにした理由は、五高生555人が持っている「個性的な色」という名の力を合わせて、今年開催されるロンドンオリンピック以上の盛り上がりを見せ、青く澄み渡る五島の空に大きな虹を架けられるような素晴らしい体育祭にしたいと考えたからです。これから、3年生を中心に各団の活動が行われていきます。3年生にとって思い出に残る体育祭になるよう頑張っていきたいと思います。

五島高校体育祭 平成24年9月9日（日）



「奮闘せよ！」 3学年主任 楠本 亨

7月になりました。学年集会でも話しましたが、期末考査が終わったからといって、ほっとしている人はいませんよね！特に公務員専願の生徒は、9月3日の防衛Ⅲ種の試験で公務員試験がスタートします。これから各種試験が毎週のようにあります。3学年における受験のトップバッターとして手本を示していきましょう。

7組の人は、先日のケース発表会でまだまだ至らない部分が見えてきたと思います。そのことを真摯に受け止めて、7月下旬から始まる集中実習に向けて取り組んでください。また専門分野だけでなく、一般教養も忘れないでください、コミュニケーションには教養は必要ですよ。

7月下旬に、夏季補習そして学習合宿があります。何度も言いますが、学習合宿に入ってから学習モードに入るのではなく、合宿前にそれぞれどこが分かっていないのかを整理し、合宿に入ったらすぐ質問ができるような態勢を作りましょう。合宿前の計画は綿密に立てておいてください。

学習をするときよく「死に物狂いでやりなさい。」と言いますが、この「死に物狂い」とは、必死になって奮闘（あばれる）することです。今、奮闘していますか？君たちの表情にはまだ余裕があります。2学期の後半になれば否が応でも引き締まった顔つきになりますが、それからでは手遅れです。今のうちからやるべきこと必死になってやってください。

最後に、「夏を制するものは、受験を制す。」という言葉があります。受験生に休みはありません。8月1日現在で、公務員試験まであと33日、センター試験まで171日、准看資格試験まで198日です。休むと単純に1日、学習する機会が減るだけです。また、進路実現する為に必要な力は、学力だけでなく、心「気力」、技「学力」、体「体力」です。この3つの力のバランスを心がけて、この夏を「鍛える夏」にしましょう。

「breakthrough (ブレイクスルー)」

2学年主任 村田 誠



2学年の学年スローガンは、3組からの案で、「breakthrough (ブレイクスルー) ～前進・躍進・突破～」と決まりました。2年生のみなさん、意識してくれてますか。この言葉、英単語ではありますが、国語辞典にも載っていて、「困難や障害を突破すること。また、その突破口」と書いてあります。インターネットで検索してみると、「ブレイクスルー思考 (福島大学、飯田忠彦助教授)」という思考法が紹介されていました。簡単に言うと、困難な状況に対し、マイナス思考で取り組むのではなく、その困難な状況に立ち向かうことそのものに価値があり、成長しながら突破していく・・・ということのようです。学年スローガンとして、とても良い言葉ですね。3組さん、ありがとう！

さて、2年生の1学期が終了し、夏休みを迎えます。もう、高校生活の折り返し点にさしかかろうとしています。早いものですね。先日は、進研模試・基礎学力テストを受験し、その後の三者面談で、自分の進路について、真剣に考えたと思います。きっと、1年生のころとは真剣さが違ったはずですよ。そりゃそうですよね。あと1年後、大学によっては8月からAO入試の出願が始まります。真剣になったときにはすでに出願期間が終わっていた・・・なんてことになったら悲惨です。

真剣になってみて、現在、どう思っていますか。思い描いていたような進路に進むことができそうですか。進研模試の前に立てた目標点を超えることができましたか。まだまだ困難な状況の人も少なくないのではないのでしょうか。ここでどう思うか。成績が下がってしまったから目標の大学をあきらめよう。なんていう人、いませんよね。「ブレイクスルー思考」では、このままではいけない。よし、やってやるぞ!となるのでしょうか。この夏休みも補習があり、課題があります。補習、課題を通して成長し、突破口をみつけてください。この夏が勝負ですよ。2年生みんなでbreakthroughしよう。

「 粘 り 」 1学年主任 山口一守

前回の学年通信第4号の続きをこの原稿に書いています。さて、三者面談も多くの人が終わったと思います。担任の先生から厳しい言葉、優しい言葉をかけてもらったことでしょう。私は8月20日(月)に行われる校内実力考査の結果をみて、君たち1年生の夏の頑張りを確かめます。

高校の夏休みは中学時代までの夏休みとは違うことを認識してほしいです。夏休みと雖も、補習、学習会、部活動、各種行事などが組み込まれています。しかし、これまでの授業があっていた毎日と比べると、君たちへの負担は軽くなります。そこで、この夏休みの期間を充実させた人が、進路実現に向けてリードをとります。担任の先生から、「計画表」をもらったでしょうから、予定をバッチリ立てましょう。夏休みでやるべき事に「優先順位をつけて、夏休みで終わらせることは、絶対夏休みで終わらせてしまうこと」を訴えかけますね。そのためには「自分で学習する力」が絶対に必要です。

話はとびますが、9月26日(水)～28日(金)の3日間は2学期の中間考査が実施されます。それまでには五高祭(9月1日、2日)と体育祭(9月9日)の2大イベントが実施されます。1年生の生徒には、学校行事には全力で取り組んでほしいです。みんなが一生懸命にやるから、行事は盛り上がるんだよね。8月20日から学校は始まりますが、そのイベントの準備で授業時間は少なくなります。そのような中でも先生たちはペースを上げて補習や授業をやっていくことを生徒諸君は覚悟しておこう。3年間で学ぶべき知識を君たちに身につけさせるために、今ペースを上げておかなければいけないんだよ。

高校の授業や生活のリズムになかなかついていけない人も、たくさんいると思う。試験の点数が上がらずに苦しいよな。君たちが苦しんでいる分、先生たちも実は悩んでいる。今、職員室にいてそんな雰囲気を感じている。でも、この現状を打破しなければ次に進めない。「勉強がわかるようになりたい」とみんな思っているよね。でも、残念ながらすぐに結果は出ない。そこで大事なのが僕は「粘り」と伝えたい。とにかく分かるまで先生や友だちに聞きまくろう。問題を解き抜こう。時間は絶対にかかるよ。でも「粘り」がある人は伸びる。先生たちも「勉強をわかるようになってほしい」と思っているんだよ。

1学年生徒諸君、粘って、現状を打破しよう。そして、人生で1回しかない高校1年生の時間を熱く生きよう。

